



ろうさい病院つうしん

発行所：中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6 TEL：052-652-5511
<http://www.chubuh.johas.go.jp/> FAX：052-653-3533

目次：副院長就任のご挨拶…P 1 新任部長挨拶…P 2 明るく、やさしい医療放射線の提供を目指して…P 4
医師交代…P 5 地域医療連携室からのお知らせ…P 6

副院長就任のご挨拶



副院長 今田 広子

連携医の先生方におかれましては、日頃より当院の運営にご協力いただき、感謝申し上げます。

この度、4月1日付けで副院長を拝命いたしました。これまでの看護部長職との兼任となります。Withコロナの時代の病院幹部として求められる、柔軟な判断や、タイムリーな意思決定ができるよう。精進していく所存です。

昨年からのCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）の流行により、医療の現場は、その対応に翻弄されています。この2月には、盤石であったはずの感染管理にゆelmが生じ、クラスターを発生させてしまい、皆様に大きなご心配と、ご迷惑をおかけしました。その教訓から、ご入院いただく全ての患者さんへのPCR検査を実施することといたしました。また、引き続き、入院患者さんへのご面会を制限させていただいております。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

6月より、愛知県の要請により、コロナ対応病床を拡大し、地域の皆様が安心して過ごすことができるよう、対応しております。ワクチン接種も、通院中の患者さんから予約制で平日午後に対応しております。

さて、ここ数年、地域包括ケアという言葉が、医療介護の世界では日常的に使われています。病院完結型医療から地域完結型医療にシフトし、地域と医療機関ではシームレスな連携が重要となります。「ほぼ在宅、時々入院」と言われるように、在院日数は短縮しています。当院では、入退院支援センターを充実させ、医師、看護師、MSW、薬剤師、栄養士を配置し、チームで入院される患者さんをサポートする体制をとっております。入院前から、入院中に行われる治療について、チームでご説明し、あらかじめ患者さんやご家族が、ご理解し納得され、安心して入院していただくことを目指しております。また、入院前から、普段の生活についてお聞きし、退院後に懸念される事柄についても、多職種で検討し、治療後を見据えて、早期に地域の方々との連携を図っております。今後ともよろしくお願いいたします。

新任部長挨拶

放射線科部長 松井 徹



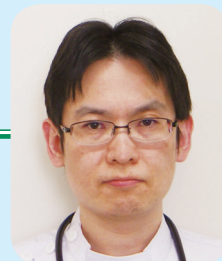
地域の連携医の先生方には平素より大変お世話になっております。この度は江南厚生病院より赴任しました。尾張北部の平原地帯から臨港の工場地帯に移り、思っていた以上の環境変化に驚いているところです。放射線科には、ほかに若手医師1名も新たに加わり、診断医1名＋治療医2名体制で診療に臨みます。ろうさい病院の放射線治療を充実させ、地域のがん診療への貢献をしていきます。

当院には汎用型のX線治療機が1台あります。特殊治療に最適化したものではありませんが、一般的な体外照射は大部分カバーできます。また、来年度までには機器のバージョンアップを行い、IMRT（強度変調治療）ができるようにしたいと考えています。粒子線や小線源など、当院でできない治療は可能な施設と連携し治療を行います。

先の見えないコロナ禍の中でも、がん治療は止めるわけにはいきません。職員と患者さんの感染と蔓延防止に気を付け、安定した治療を提供できるよう努力してまいります。

新任部長挨拶

呼吸器内科部長 竹山 佳宏



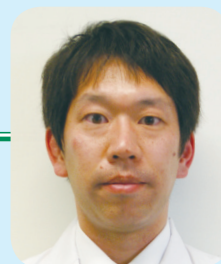
当院連携医の先生方には、平素より大変お世話になっております。私は名古屋市出身で、平成13年に藤田保健衛生大学医学部（現：藤田医科大学）を卒業し、名古屋掖済会病院で初期研修を行った後に呼吸器内科の道に進みました。その後、名古屋大学大学院医学系研究科で博士号を取得し、平成23年より豊橋市民病院での勤務を経て、令和3年4月1日より中部労災病院に赴任となりました。

呼吸器内科は、気管、気管支、肺、胸膜に関連した疾患を扱う科です。呼吸器疾患の原因としては、感染症、腫瘍、アレルギー、自己免疫性疾患など、多岐にわたり、その鑑別が重要となってきます。元々呼吸器系の病気はあまりすっきり治らないものが多かったのですが、私が呼吸器内科医になった頃と比べると、治療法は格段に進歩しており、それに伴い、患者さんのQOL、予後はかなり改善が見られています。

適切な治療を行うには適切な診断が重要であり、連携医の先生方におかれましては、もし呼吸器関連のことでお困りの際には、遠慮なくご相談をお願いしたいと思います。コロナ禍で大変とは思われますが、今後ともよろしくお願いいたします。

新任部長挨拶

リウマチ膠原病科部長 渡邊 剛史



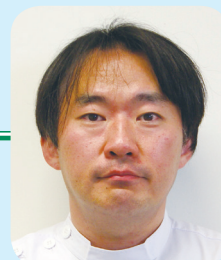
当院連携医の先生方には平素より大変お世話になり、厚く御礼申し上げます。

令和3年4月1日より、リウマチ膠原病科第三部長、総合内科第二部長を拝命いたしました渡邊剛史と申します。私は名古屋第二赤十字病院総合内科でのトレーニングを経て、平成29年4月より当院リウマチ膠原病科に入職しました。当院リウマチ膠原病科は、腎臓内科と協力体制をとっており、膠原病・腎疾患を中心に4診体制の外来と、約60名の入院患者さんの診療を担当しています。藤田芳郎副院長、滝澤直歩部長をはじめ、9名のスタッフ、内科専攻医、初期研修医でチームを組み、一丸となって診療に取り組んでいます。リウマチ膠原病科としては、中部地方でも随一の規模を誇ると自負しており、難治性の病態であっても最新のエビデンスを元に、最良の治療をみんなで考えていきます。日本リウマチ学会登録ソノグラファーも在籍し、関節エコー診療にも力を入れています。連携医の先生方がリウマチ膠原病疾患でお困りの際は、是非お気軽にご紹介いただきますようお願い申し上げます。総合内科では丸井伸行副院長とともに、内科専攻医教育や総合内科外来運営に携わっています。今年度の内科専攻医（3-5年目）の数は22名と充実しており、新総合内科専門医制度が始まってから、若い先生達がますます当院の雰囲気盛り上げています。総合力があり、かつ思いやりのある内科医が育つようサポートしていきます。

今後も連携医の先生方のご指導をいただくことが多いと存じますが、当院が地域の支えになるよう尽力していきます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

新任部長挨拶

呼吸器内科部長 松下 明弘



当院連携医の先生方には平素より大変お世話になっております。令和3年4月より第三呼吸器内科部長に就任しました松下明弘と申します。平成19年より中部労災病院後期研修、その後呼吸器内科医として仕事に従事しました。平成25年に名古屋大学大学院医学系研究科に進学し、平成29年より中部労災病院に再び戻って参りました。

4年間臨床から離れていたこともあり、当初治療の進歩には驚かされるばかりでした。特に肺癌の分野においては、免疫チェック阻害剤の登場により患者さんの予後がかなり改善しました。免疫チェック阻害剤は、2018年にノーベル生理学・医学賞を受賞された京都大学の本庶佑先生が発見されたPD-1を阻害するお薬で、現在4つ市販されております。しかし、値段が高く、1年間の使用で家を買うほどと言われております。また、進行性肺癌に対して使用されるので、手術や放射線化学療法と比べ根治は難しいため、胸部レントゲン写真等で早期に肺癌を見つけ治療することが何よりも重要です。日々奮闘いただいている先生方におかれましては、画像をみて何か違和感があるようでしたら、是非ともご紹介いただきますようお願い申し上げます。先生方の違和感が、患者さんの病気を見つけ、患者さんの健康を維持していくものと確信しております。

今後とも当院呼吸器内科へのご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

新任部長挨拶

中央手術部部長 水谷 哲之



当院連携医の先生方には、平素より大変お世話になっております。退任された若松前副院長に代わり、このたび令和3年4月1日付けで中央手術部部長を拝命致しました。

現在、新型コロナウイルス感染症の第4波が名古屋市を襲っております。昨年来より続くこのコロナ禍による受診控え、また院内クラスター発生に伴う診療制限等の影響により、当院の昨年度の手術件数は3006件と、一昨年度と比べ約500件減少しております。

現在、当院では手術を受けて頂く患者さん全員に新型コロナウイルスのスクリーニング検査を実施し、患者さん、スタッフが安全に手術に臨めるよう配慮しております。また、もし新型コロナウイルス感染症に罹患中の方に緊急手術が必要になった場合でも、すぐ対応できるように準備をしております。連携医療機関の皆様には、手術が必要と思われる患者さんに関しては、是非当院に御紹介して頂ければ幸いです。

明るく、やさしい医療放射線の提供を目指して

中央放射線部 金子 壽和



日頃より当院の運営にご協力いただき、誠にありがとうございます。連携医療機関の皆様の益々のご発展を祈願いたします。

今日の放射線検査、治療は患者さんにとって多大な利益をもたらしています。

中部労災病院 中央放射線部の取組み及び体制を紹介します。

・勤労者医療の推進

平日の検査時間では来院できない方や、検査のために仕事を休むことができない方などのために休日MRI検査の対応を行い、勤労者医療の充実に努めております。(ただし、単純MRI検査に限ります。)

・院内DWIBS(背景抑制広範囲拡散強調画像)検査開始

主にがんの転移検索を目的として有用であり、医療被ばくなし、食事制限なし、造影剤使用による患者さんの負担もなく、一度に全身(頸部～骨盤)のがんの広がりや活動性の評価が可能となる検査です。

全身のがんをチェックするための方法としては、PET(陽電子放射断層撮像法)が知られていますが、PETでは微量ながら放射性物質を体内に注入しなければなりません。一方、DWIBS検査であれば放

放射性物質を使用せずに画像を得ることができますので、医療被ばくの心配もありません。

※令和3年度整備予定のMRI (3.0T) について

地域医療のために精細な画像を安全に短時間に提供できるよう努めていきたいと考えております。

・マンモグラフィ撮影

高分解能、低被ばくを実現しております。女性技師のみで行っておりますので、安心して検査をお受け下さい。(検診マンモグラフィ撮影認定技師5名。) また、第三者機関「日本乳がん検診精度管理中央機構」によるマンモグラフィ施設画像評価認定を更新し、認定女性放射線技師による撮影、質の高い画像を提供できる環境を整えております。

・チーム医療（タスクシフト/タスクシェア）の推進

1. 検査目的と患者情報を共有し、画像診断における読影補助（STAT報告）の実践
2. 医療被ばく等に関する放射線管理士による説明と相談

・2名の常勤放射線治療医師による診察体制

現在、治療部門では放射線治療専門放射線技師、医学物理士、放射線治療品質管理士と放射線治療専従看護師を配置しております。今後、高精度放射線治療の実施を目指し、地域医療に貢献するため日々研鑽しております。

また、公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団が実施する治療用照射装置出力線量の第三者機関による評価プログラムを受けております。外部監査を受けることで、より安全な放射線治療の提供を目指しております。

受診される地域の患者さんのために「より安全、安心な明るい医療」を考え、良質な医療サービス、医療安全、放射線安全管理の実践に取り組んでおります。

今後とも、スタッフ一同より良い医療画像を提供し、土日運用も含め共同利用しやすい環境を整えてまいります。引き続きご支援ご指導賜りますようお願いいたします。

医 師 交 代

☆退 職

(令和3年1月17日付け)

稲垣 計 耳鼻咽喉科医師

(令和3年3月31日付け)

若松 正樹 副院長

芦原 睦 心療内科部長

都島 幹人 整形外科副部長

榊原 利博 呼吸器内科医師

大槻 遼 呼吸器内科医師

中村 嘉宏 リウマチ膠原病科医師

鈴木 瞳 循環器内科医師

本多 登代子 泌尿器科医師

西村 元伸 外科医師

☆採 用

(令和3年4月1日付け)

松井 徹 放射線科部長

竹山 佳宏 呼吸器内科部長

小野 玉美 放射線科医師

吉田 絵理 形成外科医師

高橋 一臣 呼吸器内科医師

鈴木 克尚 耳鼻咽喉科医師

深田 浩志 外科医師

松前 彰紘 糖尿病・内分泌内科医師

片岡 崇 循環器内科医師

杉山 友章 麻酔科医師

岩崎 慶太 リウマチ膠原病科医師

山田 智紀 消化器内科医師

野村 彰宏 リウマチ膠原病科医師

三輪 晴香 糖尿病・内分泌内科医師

武田 裕介 呼吸器外科医師

池田 安紀 呼吸器内科医師

神原 俊輔 整形外科医師

(令和3年6月1日付け)

牧田 和也 整形外科医師

☆補 職

(令和3年4月1日付け)

渡邊 剛史 リウマチ膠原病科部長

総合内科部長

松下 明弘 呼吸器内科部長

水谷 哲之 中央手術部部長

開田 剛史 麻酔科部長

榊原 類 耳鼻咽喉科副部長

地域医療連携室からのお知らせ

～ 書籍を刊行いたしました ～

この本では、当院で実践している診療を紹介し、高度な医療や最新の治療についても、医師、看護師及び医療スタッフが、写真やイラストを用いてやさしく解説しています。

名古屋市内の主要書店（三省堂本店、ジュンク堂、未来屋書店、日々野泰文堂など）、病院内売店及びamazonで販売しています。

労災病院グループ初の出版となります。ぜひお手にとってご覧ください。

患者さんに・ご家族に・地域に寄り添う
中部ろうさい病院

医師や看護師、
コメディカルスタッフが
やさしく解説！ 本体 1,100円(税込)

**決め手は
チームワーク医療**



☎地域医療連携室

(平日 8:15～19:30)

052-652-5950 (TEL)

052-652-5716 (FAX)

室長：坂口 憲史（副院長）
課長：内村 一郎
事務担当：今枝 智子・内藤 遵子・
金井 久実

当院の理念

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

編集後記：当院は、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を徹底して参ります。連携医療機関の皆様、今後ともよろしく願います。

広報委員長：神経内科 亀山 隆
編集担当：神経内科 上條 美樹子
歯科口腔外科 鶴迫 伸一
事務局 新田 晃子 今関 信夫